

きもの豆知識

単衣や夏のコート・羽織について



ついつい後回しにしてしまいがちなコートや羽織ですが、おしゃれさを演出する重要なアイテムです。

夏や単衣の時期には

夏や単衣の時期に絹や紗などの透ける素材のコートや羽織があると大変重宝します。少し肌寒い日ははおりものとして、また、透け感があるので、下の着物が透けて見えおしゃれ心を誘います。



着物とのバランスを見て色柄を選ぶ

夏や単衣の時期のコートや羽織は、遠目には無地系に見えても、光に透かすとおしゃれな柄が浮かび上がってきます。色合いも重要で、下にはおる着物とのバランスを見て選びましょう。一般的には着物が薄い色ならコートは濃い色。着物が濃い色ならコートは薄い色を合わせると相性が良いと思います。



9月の大創業祭ではコート・羽織を特集いたします。

歌舞伎のススメ

～鳴神（なるかみ）～

『鳴神（なるかみ）』という演目をご存知でしょうか？初代の団十郎が演じた荒事の代表狂言で、とても見やすく、ストーリーもわかりやすいので好きな演目の一つです。

朝廷より男児出生の祈禱の命を受けた鳴神上人は、祈禱により男児が誕生する。にもかかわらず、朝廷との戒壇（祈禱所）建立の約束を果たさないことに腹を立て、岩屋にこもり行法により雨を降らす竜神を封じ込め、一滴も雨が降らないようにしてしまう。

困った朝廷は、美女の誉れの高い雲の絶間姫を岩屋につかわし女色によって法力をやぶろうとする。女性に慣れていない鳴神上人は色香に惑い、夫婦になろうと言い出す。結婚には祝言が必要と、酒に酔わせ鳴神上人から雨を降らせる方法を聞き出す。竜神を封じ込めてあるしめ縄を切るとたちまち雨が降り、姫は急いで下山する。やがて目覚めた鳴神は事の次第を知るとすさまじい形相で雷神になって姫を追うというストーリー。

この演目の見どころは騙されたと知り怒りを表す鳴神上人が、隈取や鬘を替え、衣装も白無垢から『ぶっ返り』で火焰模様にかわり、柱に絡みつく『柱巻きの見得』。七代目団十郎によって制定された歌舞伎一八番のひとつです。



かわちやの

着付教室 12回

1回1000円

かわちやの着付け教室ではそれぞれの目的やスケジュールにあわせたカリキュラムを組んでいきます。

お気軽にご相談ください。

お問い合わせは

TEL 0563-35-0039 大橋幸子まで



花火大会や盆踊りは浴衣で楽しもう！

着付け 1,000円

ゆかた着付け 500円

ご予約はお早めに！

着物クリーニング

何でも 汚れの種類や程度によって追加料金がかかる場合がございます。

2点7,560円

着たあとのお手入れは大切！

草履・下駄はありますか？

履物の調整

1足500円



イベント案内



大創業祭

9月10日（土）～12日（月）

訪問着、紬、小紋、コート地、色無地 袋帯、名古屋帯、印伝、絣洋品 他

草木染講習会

日時 8月24日（水）

会費 1,000円+材料費

用意するもの：厚手のゴム手袋、エプロン



柿渋を採取して染液を作ることから染めるまで行います。暑いこの時期が柿渋液取りに最高です。染まった布は干すほどに濃くなります。